

佐倉惣五郎

佐倉 惣五郎（さくら そうごろう、[慶長](#) 10 年（[1605 年](#)）？

[承応](#) 2 年 8 月 3 日（[1653 年 9 月 24 日](#)）？）は、[江戸時代](#)前期における[下総国](#)[印旛郡](#)公津村（現在の[千葉県成田市](#)台方）の[名主](#)。姓は木内氏、俗称は宗吾。



下総国印旛郡の堀田領内[佐倉城](#)下に生まれ、本名を木内惣五郎という。[肥後国](#)[五家荘](#)には、五家荘葉木の[地頭](#)・緒方左衛門の子で、下総の木内家の養子になったという伝承がある^[1]。[年貢](#)の取り立てが年々厳しくなるにつれて、佐倉を代表して殿様への直訴を申し出た。

[江戸時代](#)の公津村は[佐倉藩](#)領で、惣五郎は[藩主](#)である[堀田氏](#)の苛政を、[藩](#)や江戸役人、[幕府老中](#)にも訴えたが聞き入れられなかった。このため惣五郎は、[1653 年](#)（[承応](#) 2 年）、[上野寛永寺](#)に参詣する四代[将軍](#)の[徳川家綱](#)に直訴した。その結果、藩主の苛政は収められたが、惣五郎夫妻は[磔](#)（はりつけ）となる一方、男子も[死罪](#)となってしまった。その後、惣五郎は堀田氏に崇るようになり、堀田氏は[改易](#)となったという。

しかし、こうした伝承がある一方、資料上では惣五郎が一揆や直訴を行ったという記録はない。江戸時代中期以降、『[地蔵堂通夜物語](#)』や『[東山桜荘子](#)』などの物語や芝居に取り上げられ、[義民](#)として知られるようになった。『[東山桜荘子](#)』初演の 8 年後の安政 6 年（1859 年）に起こった[伊那](#)の[南山一揆](#)の指導

者[小木曾猪兵衛](#)は佐倉惣五郎を講釈に仕立てて一揆を組織したと言われている[\[2\]](#)。

また佐倉の信奉者は多く、[幕末期](#)の思想家である[福澤諭吉](#)も、「古来唯一の忠臣義士」としてその名を挙げている[\[3\]\[4\]](#)。

惣五郎の逸話をモデルにした作品として、第17回[小学館文学賞](#)を受賞した児童文学短編『ペロ出しチョンマ』がある。作者である[斎藤隆介](#)自身が惣五郎を逸話をもとにした創作であると解説している[\[5\]](#)。

ja.wikipedia.org/wiki/佐倉惣五郎